

第154回 日商簿記検定試験 2級 一工業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

第4問 個別原価計算

問1 仕訳問題

(1) 材料の購入

(借) 材	料	1,612,000	(貸) 買	掛	金	1,612,000
-------	---	-----------	-------	---	---	-----------

※ 1,300kg(当月購入量) × 1,240円(実際購入単価) = 1,612,000円

(2) 材料の消費

(借) 仕	掛	品	1,620,000	(貸) 材	料	1,620,000
-------	---	---	-----------	-------	---	-----------

※ 660,000円(#0201の直接材料費) + 120,000円(#0201-1の直接材料費) + 840,000円(#0202の直接材料費)

= 1,620,000円

(3) 消費価格差異の計上

(借) 消費	価格	差異	75,000	(貸) 材	料	75,000
--------	----	----	--------	-------	---	--------

※ 1 実際消費額 : 350kg(月初在庫量) × 1,300円(月初実際購入単価) + 1,612,000円(当月実際購入額)

− 300kg(月末在庫量) × 1,240円(当月実際購入単価) = 1,695,000円

※ 2 消費価格差異 : 1,620,000円(予定消費額) − 1,695,000円(実際消費額) = 75,000円(不利差異)

(4) 材料勘定の作成 (参考)

材 料			
月初有高	455,000	当月予定消費高	1,620,000
当月購入高	1,612,000	消費価格差異	75,000
		月末有高	372,000
	2,067,000		2,067,000

※ 300kg(月末在庫量) × 1,240円(当月実際購入単価)

問2 完成品原価の計算

問題文に個別原価計算表(小計より前まで)が示してあるため、これを利用して、原価計算表を完成すれば完成品原価が計算できる。

個別原価計算表 (単位:円)

	# 0201	# 0201-1	# 0202	合計
前月繰越	—	—	—	—
直接材料費	660,000	120,000	840,000	1,620,000
直接労務費	340,000	80,000	400,000	820,000
製造間接費	544,000	128,000	640,000	1,312,000
小計	1,544,000	328,000	1,880,000	3,752,000
仕損費	328,000	△ 328,000	—	0
合計	1,872,000	0	1,880,000	3,752,000
備考	完成	# 0201へ	仕掛中	—

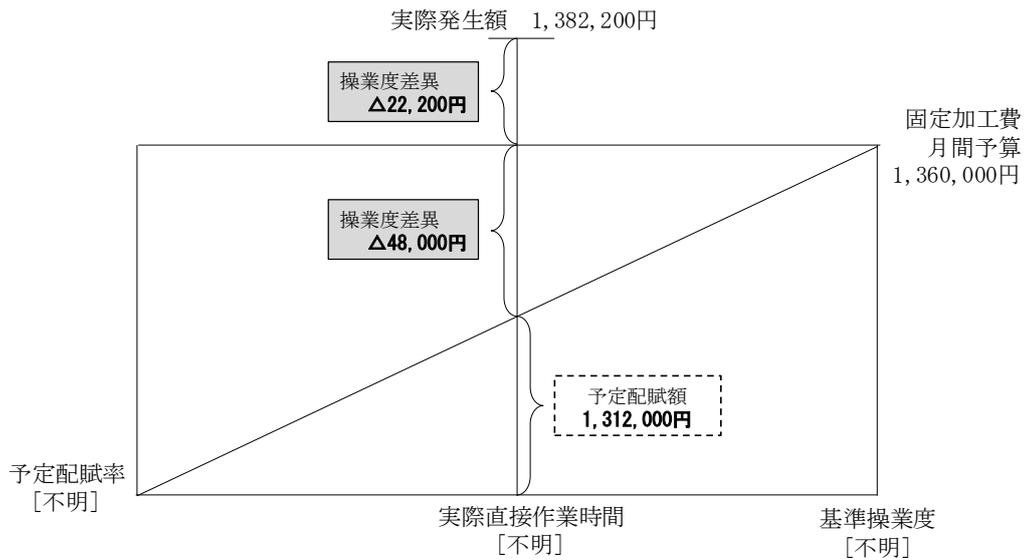
⇒ # 0201の原価合計が完成品原価となる。

問3 製造間接費勘定の完成

製造間接費勘定を示すと、次のとおり。なお、操業度差異の計算に用いる基準操業度が不明であるが、予算差異を先に計算し、差額で操業度差異を求めればよい。

製造間接費			
実際発生額	1,382,200	予定配賦額	1,312,000 ※ 原価計算表の合計
		予算差異	22,200 ※ 下記シュラッター図参照
		操業度差異	48,000 ※ 貸借差額
	<u>1,382,200</u>		<u>1,382,200</u>

[固定予算のシュラッター図]



第5問 単純総合原価計算

問1

1. 直接材料費（A原料）

直接材料費（A原料）			
480,000円	月初仕掛品 4,000kg	完成品 60,000kg	7,320,000円
7,080,000円	当月投入量 59,000kg	正常仕損品 1,000kg	→計算しない
		月末仕掛品 2,000kg	240,000円
<u>7,560,000円</u>			<u>7,560,000円</u>

- ① 月末仕掛品原価：7,080,000円(当月投入原価)÷59,000kg(当月投入量)×2,000kg(月末仕掛品量)＝240,000円
 ② 当月完成品原価：7,560,000円(原価総額)－240,000円(月末仕掛品原価)＝7,320,000円

《補足》 B原料の投入量について

「当月投入量59,000kgを、A原料とB原料の投入量に分け、それぞれの投入量を用いて計算する(＝「追加投入によって生産量が増加するケース)」と考えることもできるが、上記ボックス図より、月初単価・当月投入単価をそれぞれ計算すると、いずれも120円/kgとなるため、資料の生産データは全てA原料の数量だけが示されているものと解釈して計算している。

2. 直接材料費（B原料）

B原料費はすべて完成品に負担させるため、ボックス図は次のようになり、追加されたB原料の数量が不明でも、原価計算を行うことができる。

直接材料費（B原料）			
0円	月初仕掛品 0kg	完成品 ? kg	660,000円
660,000円	当月投入量 ? kg	正常仕損品 ? kg	→計算しない
		月末仕掛品 0kg	0円
<u>660,000円</u>			<u>660,000円</u>

3. 加工費

加工費			
220,000円	月初仕掛品 2,000kg	完成品 60,000kg	9,660,000円
9,600,000円	当月加工量 60,000kg	正常仕損品 1,000kg	→計算しない
		月末仕掛品 1,000kg	160,000円
<u>9,820,000円</u>			<u>9,820,000円</u>

※ 数量はすべて加工進捗度考慮後のものである。

- ① 月末仕掛品原価：9,600,000円(当月投入原価)÷60,000kg(当月加工量)×1,000kg(月末仕掛品量)＝160,000円
 ② 当月完成品原価：9,820,000円(原価総額)－160,000円(月末仕掛品原価)＝9,660,000円

問2 仕損品に処分価額（評価額）がある場合の完成品原価

17,640,000円(問1の完成品原価)－1,000kg(正常仕損量)×120円(仕損品評価額)＝17,520,000円